

## 特集：大学説明会

## 学生による大学説明 —授業について—

福士 路花（筑波大学 生物学類 3年）

## 授業・実験・実習について

## 筑波大学のここがイイ！

- 総合大学
- 体育…。

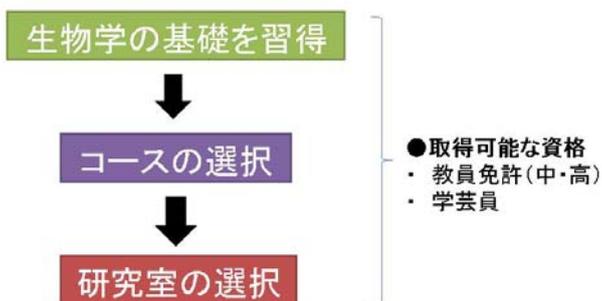
生物学類3年次 人間コース 福士路花

学校の周り＝  
5 km強のランニングコース

授業などについて説明します、生物学類3年の福士路花です。よろしくお願ひします。

まず、生物学類生の4年間をざっくり説明したいと思います。

## 4年間の大まかな流れ



生物学類では、まず1年生の時に生物学の基礎をじっくりかためます。この1年間でさまざまな生物学の分野を学び、自分のやりたい分野を見つけて、2年生になる前にコースを選択します。そして2年生になると、コースに沿って専門的・高度な知識を身につけて始めます。2、3年生の2年間をかけて専門的・高度な知識を吸収し、4年生になる前に研究室を選択、卒業研究を行います。この卒研に関してはこのあと塩谷さんが多分面白おかしく話してくれるかと思ひます。

この4年間で取得できる資格には、中高の理科教員免許と学芸員資格があります。

学芸員：博物館（水族館とか動物園とかも含まれる）で働くのに必要だったり、有利になったりする資格。

筑波大学の強みの一つに、総合大学ということがあります。筑波大学には全部で25の学類・専門学群があります。筑波大学生は、ほかの学類の授業をとることができます。つまり、私たち生物学類生は生物を学びに大学に入学しましたが、4年間ずっと生物！！というわけではなくて、他のことを勉強するチャンスも与えられています。

例えば、中国史ファンの私の学類の友人は人文学類の中国史をとっていたり、絵を描くのが趣味の友人は芸術学群の色彩学をとったりしていました。

もうひとつ、筑波大といえば外せないのが体育です。なんと、生物学類は2年生まで体育が必修です。えーという方、やったあという方、いらっしゃるかと思ひます。私は間違いなく前者でした。しかし、筑波大学の体育は、体育教育の最高峰である体育専門学群の先生方によるもので、多分すごいものなんだと思ひます。私の水泳の先生はシンクロのオリンピック選手でした。

## 生物学類にはコレがある！

- 物理化学受験者も安心
- 実験初心者も安心
- 研究マインド応援プログラム
- TWINS:リアルタイム双方向授業評価システム
- 先生の数が多い

今度は生物学類ならではの、のオススメの点です。まずはこれ。受験で生物を勉強していなくても安心、ということです。先ほど1年生は基礎を学ぶと言いましたが、この時に、一から生物学を教えてもらえるので、きちんと授業についていくことができます。また、これまでに高校でほとんど実験なんかしたことない人が大半かと思いますが、これも1年生の時に基礎的な実験方法を1年間かけて身につけます。実験につきもののレポートの書き方もしっかり学べます。

で、1年生の時は基礎だ基礎だと言ってきましたが、今すでに自分で研究をしている！という方もいらっしゃるかと思います。そういう人のためにあるのがこの研究マインド応援プログラムです。1、2年生の時から研究室に所属して、実験することができます。

それから、生物学類には授業評価システムがあります。評価システム自体は筑波大学全体でも行っていますが、生物学類では特にリアルタイムで評価ができます。なので、「今日の授業のプリントは見づらかった」とか「ここがわからなかった」というような意見がすぐに次の週の授業に反映されます。

それから、生物学類の大きな特徴として、先生がたくさんいる、ということがあります。これは言い換えると、たくさんの研究内容がある、ということです。学類案内に教員一覧があります。これだけいけば、きっとあなたと興味がある研究をしている先生が見つけれられると思います。また、このたくさんの先生方、みんなキャラが濃いです。でもほとんどの先生が学生に対して非常に気さくで、フレンドリーです。ぜひ今日の説明会中に、先生方に話しかけてみてください。きっと喜んでいろんなことを話してくれますよ。

## ある日のふくしさん(3年生)

8:40 - 9:55	授業(たまに自主休講)
10:10 - 11:25	授業
11:25 - 12:15	昼休み
12:15 - 16:00	実験
16:00 - 17:00	(自主)休憩
17:00 - 21:00	実験

今度はこちらに、生物学類生がどんな一日を過ごしているのか一例をあげてみました。

これはあくまで一例です。1年中こんな朝から晩までギッチリ学校にいるわけではありませんよ。

まず午前中に、2コマ授業を受けます。最初の一コマは、睡魔のいたずらによって、自主休講になってしまうこともあります。そして午後からはひたすら実験です。合間にちょこちょこリフレッシュタイムをはさみながら実験を続けます。実験の終了時間は特に決まっていません。終わらせることはできても、終わることはありません。では具体的にこの実験ってどんなことがあるのかちょっとお見せしましょう。

## 実験



こちらは発生学実験より、受精してから7日目のニワトリ胚です。この実験ではニワトリが受精してからヒヨコになるまで、毎日タマゴを割ってはその発生していく様子を観察しました。

## 実験

植物生理学実験より:  
癒合の実験(GUS染色)



発生学実験より: 遺伝子組換え操作を行ったショウジョウバエ

こちららも発生学実験で、ショウジョウバエです。これは羽や足が生えるはずの場所に目ができる変異体です。こんなのを作ったりしました。

また、こちらは植物生理学実験で、植物体に傷をつけ、治っていく過程でどんな遺伝子が発現しているのかを見ました。

ちなみにこれらはすべて私がとった実験です。私は人間コースですが、このように、動物に限らず、植物など、興味のある授業・実験をとることも可能です。コース選択をしたからといって、私たちの興味の幅が狭められてしまうわけではないんですよ。

## 菅平高原実験センター



センター内の滝(1月)

実験は筑波大学の中で行われますが、筑波大学外で実験をする、実習というものもあります。生物学類には主に2つの実習施設があります。まず一つはこの菅平高原実験センター。冷涼な山地における生物学の研究が盛んに行われています。このようなフィールドを持つ実習施設は関東にはあまりありません。この写真は冬に行われた実習の写真です。

## 菅平高原実験センター



バードウォッチング



みんなでスキーウェアを着ながら雪山を歩きまわり、バードウォッチングをしたり、カモシカなどの落し物を拾い集め、その中身を調べてみたり、しました。写真はありませんが、夏、まさに今の時期にも菅平での実習があります。菅平高原実験センターについてもっと知りたい方は、菅平のHPなどご覧になってみてください。

## 下田臨海実験センター



もうひとつの実習施設には、下田臨海実験センターがあります。こちらは、ご覧の通り海です。これはセンター前に広がる鍋田湾です。朝5時の風景です。

ここは、関東でも数少ない宿泊設備の整った臨海実習場です。

## 下田臨海実験センター



これは夏の実習の様子です。写真のように岩場で磯やプランクトンをとることもあれば、沖で素潜りで採集したり、トロール船を使って採集することもあります。

## 下田臨海実験センター



どうやら何か捕まえたようです。夕飯になるのでしょうか。今日の研究展示において、下田の先生方もブースを構えています。ぜひぜひ遊びに行ってみてください。

ご静聴ありがとうございました。



カリキュラムの組み方は一人ひとり違います。是非、いろんな学生スタッフに聞いてみてその可能性の多さを実感してみてください。

では、以上で授業について終わります。カリキュラムの組み方は、本当に多種多様です。

ぜひ、今日の説明会スタッフに聞いてみてください。われわれ一同、皆さんからの質問をととても心待ちにしております。

私自身は、今日の午後は相談ブースにおります。ぜひ遊びに来てくださいね。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 18, 2009.